

## 最低血圧の改善 歴代所長の工夫

**Q** 五十歳、男性。以前から健康診断で尿たんぱくが出ているといわれ慢性腎炎と診断されています。五年ほど前から高血圧で降圧剤を服用していますが、上は一三〇ぐらいまで下がるのに、下の血圧はほとんど下がりません。下の血圧が高いタイプだから腎（じん）機能が低下しやすいといわれています。

**A** 腎性高血圧といわれるものである。質問者は最低血圧が一〇から一二〇とかなり高く、降圧剤を飲んでも下がらないとのことである。降圧剤は最高血圧にはよく効くものが多いが、最低血圧は下がりにくく、結果として血圧の幅が狭まり、血液循環の立場からは好ましくない。

当研究所の初代所長・大塚敬節氏は自身がこ

の種の腎性高血圧と眼底出血におそわれ、種々の漢方薬を勘案し、七種類の生薬をブレンドして七物降下湯（しちもつこうかとう）という処方をつくった。

二代所長・矢数道明氏は、杜仲（とちゅう）という生薬にも降圧作用があることから、これを加えて八物降下湯（はちもつこうかとう）と命名した。三代所長・大塚恭男氏は、黄連解毒湯（おうれんげどくとう）に降圧作用があることから七物降下湯とブレンドして十物降下湯（じゅうもつこうかとう）と命名した。

それぞれ使用目標に若干の相違があるが、腎性高血圧や動脈硬化性高血圧で最低血圧の高いタイプの漢方薬として当研究所に伝えられている。